

〔水 稲〕

1. 作付の概況

九州における平成 26 年度産水稻の作付面積は、17 万 8,200ha で、前年産に比べて 5300ha（対前年比 3%）減少した。品種毎の作付面積を見ると、「ヒノヒカリ」及び「コシヒカリ」が九州全体の作付面積 60%を占める一方、「夢しずく」、「さがびより」、「元気つくし」、「にこまる」、「あきほなみ」、「くまさんの力」、「つや姫」及び「おてんとそだち」など高温耐性品種が県毎に作付けられている。

2. 作柄の概況

九州における平成 26 年産水稻の収穫量は、85 万 8,800t で、前年度より減少した。これは、作付面積が減少したこと並びに、日照不足によるもみ数不足、いもち病及びウンカ等の病虫害の被害により、作況指数が昨年並みの 96「やや不良」であったためである。県別の作況指数では、沖縄は台風の影響により「84」、佐賀は「92」の不良、鹿児島は「95」、福岡は「96」、長崎、熊本、大分は「97」、宮崎は「98」のやや不良であった。

3. 生育の概況

1) 普通期水稻

8月の日照不足により、大分を除く九州各県では、全もみ数が「やや少ない」もしくは「少ない」状況であったが、9月中下旬以降天候が回復傾向にあったことに加え、全もみ数が少なかったことによる補償作用で登熟は「平年並み」ないし「やや良」となった。日照不足と低温の影響により、佐賀、大分、福岡、熊本、長崎では 21 年ぶりにいもち病の発生が「やや多い」状況であった他、9月下旬にウンカの発生が見られた。

2) 早期水稻

4月中旬から5月上旬の低温により分けつが抑制され、穂数が少なく、全もみ数もやや少なくなかったが、梅雨明け以降天候に恵まれ良好であったことに加え収穫期の降雨により登熟期間が延びたことから、主産県である宮崎や鹿児島の作況指数は、宮崎「102」、鹿児島「103」のやや良であった。

4. 被害の概況

早期栽培では、台風による倒伏、いもち病、紋枯病、虫害等の発生が見受けられたが「平年並み」ないし「やや少ない」となった。普通栽培では、日照不足による生育被害、いもち病や紋枯病等に加え、9月下旬以降はウンカの拡大により、九州各県の被害は「やや多い」ないし「多い」となった。